編集後記

伊勢神宮の第62回式年遷宮が終わった。内宮は10月2日に、外宮は10月5日に遷御の儀が行われ、全て新しくなった神殿に祭神がお移りになられた。一連の行事は平成17年から準備が始まった。足掛け8年、総事業費約580億円に上る壮大な事業もこれでほぼ終了した。折からのパワースポットブームのためか、遷御の儀終了後の参拝には、数百人が深夜から並んだとのニュースが流れた。白木の香りも清々しく新築された神宮への参拝は、きっと荘厳さも一入だったことだろう。

出雲大社も60年ぶりの遷宮が行われている。こちらは平成20年から事業が始まり、昨年、新本殿へ大国主命が遷座され、今後も各種祭礼が平成28年まで続くという。

一方、7月3日、「富士山～信仰の対象と芸術の源泉」として、富士山とその周囲に展開する神社等の施設を含めた広大な領域が、世界文化遺産として登録された。

一連の報道は、ともすれば西洋の文化にあこがれを抱きがちな我々に、日本古来の文化・精神性の価値を再認識させた貴重な出来事だったと思う。

さて、今月号の表紙は、マチュピチュ。インカ帝国の「空中都市」遺跡は、先頃引退発表を行った、宮崎駿監督の「天空の城ラピュタ」にヒントを与えたことでも有名だ。

報告は、早世した女流詩人、金子みすず氏の詩の引用が興味を引き付ける第9回男女共同参画フォーラム、今後、在宅医療の中心的役割が期待される第26回全国有床診療所連絡協議会、各種議題が討論された九州医師会連合会第335回常任委員会、宮里常任理事の熱意が伝わる印象記が圧巻の第57回九州ブロック学校保健・学校医大会、今年も多くの参加者を集めたなごみ会第3回県民健康フェア、臨場感いっぱいの陸上自衛隊第15旅団災害対処図上訓練、離島医療の現状について話し合われた平成25年度第2回マスコミとの懇談会と続く。

生涯教育は、高齢者の結核に関して。先頃、妊婦故に発見が遅れ、不幸な転機をたどった症例や、那覇市内小学校での集団感染など話題に事欠かない疾患だが、感染者の中心は高齢者だという。会員が今、興味を持っているテーマを、分かり易く解説して下さった。プライマリ・ケアコーナーの中高齢者の心雑音に関する説明は、臨床現場ですぐに役立つ大変うれしい内容だ。

整形外科医会　松本悟会長のインタビュー、月間お知らせコーナーの4題、そして随筆が3題と、今月号はコンパクトながらバラエティーに富んだ内容だ。

皆様の秋の夜長の一冊に、この会報を加えて頂ければ幸いだ。

今年の台風シーズンは、そろそろ終わろうとしている。会員施設の被害は、如何なものだっただろうか。ニュースなどで見る限り、宮古・八重山地方に加え、本島北部地方にも大きな爪痕を残したように思える。まだ油断は禁物だが、これ以上の被害が無いことを祈りたい。

広報委員　白井 和美